

生理心理学		講義	教授 竹内 成生
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの専門選択科目	科目ナンバリング	11302201

1. 授業のねらい・概要

生理学心理学とは、生理学的測定手法を用い、生理的变化と行動との関係から人間の心理作用を研究する分野である。生理心理学的研究パラダイムとその成果は、脳機能測定機器の発達にともない、神経科学、認知科学分野をはじめとしたさまざまな分野で活用されている。近年、中枢神経系の指標とともに呼吸や心拍の変動といった自律神経系の活動を同時計測することで、あらたな知見が報告され、自律神経系の指標を用いた研究手法が再注目されている。本講義では生理学を基礎から学ぶために、人間の生理機能と心理機能、およびその関係について実際に体験しながら概観する。生理学の知識と心理学の知識を機能の観点から結びつけることによって、自身の身体状況と心理状況に関する知識と理解を深めることを目標とする。

2. 授業の進め方

パワーポイント、視聴覚教材、板書等を用いるとともに体験を重視した授業を進める。また生理心理学的測定手法のデモンストレーションや心理検査等の指標も適宜利用する。

3. 授業計画

1. 生理心理学の概要	9. 緊張と瞬目との関係（パーソナルスペース検討）
2. 心臓血管系の生理心理	10. 虚偽と瞬目との関係（瞬目の増減と心理機能）
3. 心拍と呼吸との関係	11. 反応時間の生理心理（中枢と末梢との関係）
4. 心拍と姿勢との関係（初期値の法則）	12. 認知的干渉と反応時間との関係
5. 注意機能と心拍数との関係（能動/受動的対処）	13. ステレオタイプ抑制と反応時間との関係
6. 情動機能と呼吸との関係	14. 実験操作による計測結果への影響
7. 視覚機能の生理心理	15. まとめとフィードバック
8. 興味と瞬目の関係（覚醒度による解釈）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため、各テーマについて予め考察しておくこと。加えて、各講義で学んだ概念や各トピックについて、自らの経験と照らし合わせて理解を深めることが重要である。なお、各講義における準備学習時間は2時間以上を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小レポートに関する詳細解説は次の講義内にておこなう。また、試験のフィードバックは出題意図・解答ならびに理解すべき点等について試験終了直後に実施する。

6. 授業における学修の到達目標

生理学の知識と心理学の知識を機能の観点から結びつけることによって、自身の身体状況と心理状況に関する知識と理解を深めることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

各回の課題実施状況（25%）、小レポート・小テスト（25%）、試験（50%）を基準として総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しないが、参考図書を初回授業内に紹介する。各講義でプリントを配布することがある。

9. 受講上の留意事項

生理心理学では身近に存在する生理－心理の不思議な現象を取り上げることが多い領域でもあるため、自身の体験に照らして人間の生理機能と心理機能への理解を深めることが重要である。また、講義内で各テーマに関係した生理機能測定の実験やデモンストレーションを実施する予定である。実際の体験を通じてイメージを深め、積極的に学習を進めてほしい。履修希望者が定員を超えた場合には抽選となることがあるため、希望者は初回講義に必ず参加すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。障害を対象とした研究機関での実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。